

少林寺拳法3代 京都で活躍

初代は開祖直弟子 息子・孫は国内外大会で躍進



少林寺拳法の第一線で活躍している森川一家(京都市左京区・洛東道院)

親子3代にわたって少林寺拳法の第一線で活躍している一家が、向日市と京都市にいます。初代は少林寺拳法開祖の直弟子として京都市内に道場を構え、2代目は国際大会で優勝。3代目は世界への切符を懸けて10月の全国大会に出場する。一家16人全員が少林寺拳法を修行しており、注目を集めている。

一家16人、技と心修練怠らず

初代の森川是汪さん(87)は、開祖の故宗道臣さんの直弟子となり、1966年に左京区の三福寺に洛東道院を開設。道場生はこれまでに4千人を超える京都最古参の道場だ。

長男の和仁さん(51)は左京区と次男の弘仁さん(49)は向日市上植野町は、1997年に日本武道館で開かれた国際大会の組演武の部で最優秀賞に輝いたほか、全国大会の最優秀賞を6回受賞。和仁さんは洛東道院の副道院長、弘仁さんは道場長を務め、自身の子どもを含む約80人の指導にあたっている。

弘仁さんの長男で同志社大2年の慈仁さん(20)もインターハイで優勝するなど輝かしい実績を持つ。「物心ついた時には道着を着ていた。奥が深く、礼儀作法も身につけることができる」と魅力を話す。

練習日には技術の修練の前に、作務(清掃)や学科(教への理解)を怠らない。それは全国大会出場を控えた道場生も例外ではなく、「大会の演武だけ稽古しても身につかない。基本が大事」と和仁さんは強調する。

慈仁さんと妹の風輝さん(17)、和仁さんの次女春菜さん(16)は、10月に大分県別府市で開かれる全国大会にそろって出場する。「基本をおろそかにせず、精いっぱい演武を見せたい」と意気込んでいる。

(小野俊介)